（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援リ・ハビリ初音			
○保護者評価実施期間	2025年　7月　22日	～	2025年　8月　8日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	20人	（回答者数）	14人
○従業者評価実施期間	2025年　7月　22日	～	2025年　8月　8日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9人	（回答者数）	9人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　8月　22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様への支援内容 ⇒専門的に尚且つ本人とご家族の思いに添いながら支援を行っている。	・個別支援計画に関しては日々、計画→検証・実施→振り返り→改善を業務後のミーティングや計画作成月に話合いを重ねている。 ・開所前に個別支援計画の中でお子様に行う支援の内容を確認している。 ・定量的な評価と定性的な評価をどちらも大事にしていきながらお子様の発達や支援の方向を検討している	・保護者へ集団や個別活動の介入前に目的説明を行う。 ・半年に1回モニタリングを行っているが、それ以外にも保護者の思いを聞く時間をこまめに作る。
2	地域との連携 ⇒相談支援事業所や併用しているデイサービス、保育園等と情報の共有を行っている	・本人の生活を考えて望ましい移行先がある場合、その事業所に情報提供や担当者会議が行われれば参加する。 ・相談支援事業所には、ご利用者様の変化等はこまめに伝達している。	・移行先への見学をさせてもらい現場の環境等を把握する。 ・共通の悩みを持つ保護者様同士のペアリングを考えながら行います。
3	業務改善 ⇒支援計画、外部評価、その他ご意見などを改善してより良い内容に変えていくことができるチーム	・定期的なモニタリング会議の実施 ・ヒヤリハットや事故があった場合の是正措置を行うスピード感 ・ISOを取得し、サービスの質を担保している。	・継続して報告連絡相談が行いやすい組織作り、起こったことをどう改善していくのかをチームで考える組織作りを管理者・リーダーが先導していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応	・年に1回（9月）の避難訓練では、周知や経験がないまま卒業される方もいる ・防災マニュアルや緊急時マニュアルは策定して、改訂を行っている。その他の会社の小児部門の基本的マニュアルが必要	・月1回の会議での課題の抽出しながら、改善を続ける。 ・通所されている方がどこかでは周知や経験ができるように訓練（防災・防犯）を年に４回は実施していきたいと考える
2	保護者交流が少ない	・木曜（ぞう組）、金曜日（うさぎ組）のご利用者様は固定制であるため、横のつながりが持ちやすいが、(月)(火)のみのご利用者様は予約制でメンバーも常に変わることや親子分離の時間がないことで交流を生みにくい環境にある。 ・イベントでの交流（クリスマス会、お祭り）も企画しているが、単発ではある	・保護者交流の時間を確保
3	地域の園や子どもたちの活動する機会がない	・乳幼児期のご利用者様やご家族が多く、幼児期後半になると園への移行、ご家族で就労による卒業するケースが多く、地域の子どもとの交流する時期に適しているのかという疑問がある。 ・障がい受容に対する不安定な時期でもあるため、交流をすすめるべきは吟味が必要である	・交流する相手・機関はご利用者様にとって、有益である場合は積極的に進めていきたいと考える。